

市長の窓

しげ のぶ
滋宣の

ほう ちゅう かん

あん ちゅう めい

“忙中閑あり暗中明あり”

その②〇

さほひめ
～ 佐保姫～

春をつかさどる女神のことです。

佐保山は奈良の都、平城京の東にあり、東の方向は、古代中国の思想・五行説で春に当たることからいうもので、芽吹きの季節をつかさどる女神とされました。対して、紅葉の季節をつかさどるのは、大和の西にある竜田山の竜田姫です。

佐保山はいにしえから親しまれてきた山で、万葉集にも詠われ、佐保川とともに歌枕となっています。

春に花が咲き、緑に染まるのも、秋に赤や黄に彩られるのも、すべて神様のなす業であってみれば、造化の妙も納得のいくというものです。

おほ
佐穂山を 凡に見しかど 今見れば
(保) 山なつかしも 風吹くなゆめ
(万葉集)

能代市長 齊 藤 滋 宣



3月24日、岩手県大船渡市を訪れ、戸田公明市長(右)に能代市からの見舞金を手渡した齊藤市長(中)と武田市議会議長(左)